

○9 番（福永 啓君） 一般質問を行います。

熊本地震から5年が過ぎました。未曾有の被災が生じたこの御船町においても、震災からの復旧・復興、相当程度進んでいます。インフラや生活基盤、生活環境の復旧・復興等を物理的な、物質的なものは相当進む中で、創造的復興を図るにあたり、重要視されているのが心の復興です。それは、現在のコロナ禍においてますます重要性を増していると言えるでしょう。

しかし、心の復興は人々の内面に関することであり、復興・復旧の度合いが見えにくい、図りにくい部分があります。その心の復興に大変重要な役割を果たすのが芸術・文化ですが、現在やはりコロナ禍も加わり、重要性は増すもののこの芸術・文化に関する施策の実施や振興策については大変厳しい状態にあるのではないかと感じています。町として、また主に芸術・文化を担当する教育委員会の長として、芸術・文化をどのように理解し、地方公共団体として芸術・文化の振興をどのように考えているのかお聞きします。

個別の質問に関しては、質問席より行います。

○町長（藤木正幸君） 福永議員の1、芸術・文化の振興をどう考えるかについて、お答えいたします。

芸術・文化は、人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互の理解を尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな

社会を形成するものであります。

本町では、令和2年3月に策定した第3期御船町教育振興基本計画において、基本目標として「文化の香りあふれ、スポーツの花咲く環境づくり」を掲げ、達成するための施策としてカルチャーセンターを核とした文化活動の充実や郷土の伝承文化、芸術継承に取り組むこととしています。

今後とも地域の伝統や文化を担う人材育成の取組みを行い、文化・芸術活動を発表する機会を提供し、より多くの町民が文化・芸術活動に触れることで、豊かな心を育むことができるよう支援を進めてまいります。

その他、個別質問については、担当課長から答弁させます。

○教育長（上杉奈緒子君） 福永議員の質問にお答えいたします。

私は県の生涯学習推進センター審議員をしております折に、美術館、博物館、演劇等の講座づくりに、企画をかかわっておりました。特に演劇のワークショップにおいては、講座生の心が解放されていく場面を目の前で見えておりました。苦しいときほど心を満たすものがが必要です。芸術・文化は感動や生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものであると同時に、社会全体を活性化する上で大きな力になると考えております。

先ほども町長からありましたとおり、御船町教育委員会としては、御船町教育振興基本計画に基本目標「文化の香りあふれ、スポーツの花咲く環境づくり」を掲げ、カルチャーセンターを核とした文化活動の拡充、郷土の伝統文化・芸術の継承の施策を示しております。残念ながら、コロナ禍で本来計画していた芸術・文化活動については制限してしまっているところです。

また、本町には貴重な古墳や歴史的史跡等の文化遺跡が数多くありますが、震災以降手が付けられていない状況もあります。さらに文化・芸術の担い手不足も課題となっております。今後、文化・芸術、町並み、地域の歴史等を地域資源として戦略的に活用し、地域の特色に応じた取組みを展開する必要があると考えております。

○9番（福永 啓君） 答弁ありがとうございます。

このような質問は、実は前教育長も初めてここに来られたときにお話をお伺いしました。なぜかと申しますと、特に今新しい教育長がいらっしゃっても、なかなか町民の方々と直接お話しする機会が減ってきていると思います。私ども議会も懇親会ないし本当は歓迎会とか、それもなかったんですよね。そのように面と向かってなかなかお話をする機会

がない。この方は文化・芸術に関してどのようなお考えをお持ちなのだろうと、そういうことをやはり町民の方々にきちっと示していただくことも、これは非常に重要なことではないかと思って、このような質問をしております。

今回の質問は、インターネットで配信もされますので、「町長さんは文化・芸術について、今度、どぎゃん思っとなはっとな」とか、「教育長さんはどぎゃん思っとなはっとな」といったときに、これをどうぞ聞いてくださいと、こういう答弁がありましたよと御紹介もできますので、そのような形で、今は主に教育委員会としてこのようにしていきたいと、町としてこうしていきたいというお話でしたが、教育長、今までいろいろ教育行政にかかわる中で、個人的にこのようなことをして文化・芸術に対して私はこのような思いを持っているんだよというのがございましたら、ぜひお聞かせください。

○教育長（上杉奈緒子君） 私の人となりということで話せということでしたので。私は昨年度まで、実は崇城大学の芸術学部非常勤講師をしておりました。講座生に生涯学習概論という話をしていたんですが、その講座生たちが自分たちの作品を発表する機会があります。そういうものを見に行くときに洋画、日本画、写真、アニメだけではなくて、音楽や映像などICTを活用した学生たちの現代アート作品をたくさん見る機会がありました。芸術の幅広さを感じたところです。

先日終わったパラリンピックの開会式や閉会式でも、プロジェクションマッピング等の新しい手法を使ったストーリー性のある演出がなされておりました。芸術は人間が人間らしく生きるための糧となるものであり、今後の文化・芸術の新たな可能性を感じたところです。

御船町の芸術・文化につきましても、新しい視点で地域の良さを生かすように、地域住民に対する仕掛け、身近に芸術・文化を楽しむことができるような取組みが必要だと考えています。私自身、御船町の史跡めぐりをした際に、震災後の史跡等がかなり傷んでいるということに心を痛めました。御船の文化・芸術を守るために何ができるかと今考えているところです。

○9番（福永 啓君） 御船町には、おっしゃるとおり素晴らしい遺跡等もございます。そして、御船高校には芸術コースもあるんです。このように、そして今、教育長がおっしゃられたように、芸術・文化は大変私も重要だと思っています。重要性の高いものだと思っています。

一方、やはり芸術・文化に関するいろいろな方とお話しする機会も、私もあります。その中に出てくるものが、「みんな重要とはいいなはつとですよ。そるばつてん、地方公共団体としてどうしても文化・芸術に関する施策、これは後回しになりがちじゃなかつてすか」と。「なかなかお金が付かんですもんね」とか、「なかなかそやん言いなはるばつてん、なかなかそやんでけんですもんね」という話はよくお聞きいたします。なぜ、そのような感覚を持たれる方がいらっしゃるのか。そして、その原因はどのようにお考えになりますか。

○教育長（上杉奈緒子君） 教育委員会といたしましては、御船町の文化・芸術の振興を図ることは重要であると考えております。現在はコロナ禍で教育委員会としても何もできない状況が続いております。その結果、地域住民が文化・芸術にかかわる機会が不足していると考えています。本来なら、音楽を楽しみたい、演劇を見たい、参加したいという欲求がありながらも我慢している状況だろうと思います。

芸術・文化は日常的に地域住民の身近な生活とつながっているものです。教育委員会といたしましても多くの地域住民が文化・芸術活動にかかわる場や機会を作るとともに、住民への周知を図る必要性があると考えております。

○9番（福永 啓君） 私も同意するところであります。しかし、それがなかなか進まないという理由の中に、これは私の考え方なのですが、まず、芸術・文化というものに対する理解、これがなかなか進まない、進んでいないことかなと思います。

まず、芸術・文化です。これは、私たちは動物としての生存ですとか種の保存ですとか、結局犬とか猫とかは芸術・文化がなくても生きていけるんです。ですので、何か生きていくのに不必要なものではないか、そういう、という意識があるのではないかなというのを私は思っているんです。「それがなくたってちゃ生きていかるったい」と、果たして私はそうでしょうかということを考えています。

実は、今皆さんがここにいらっしゃる議場なんですけど、これも芸術・文化ですよ。この形は誰が作りましたか。やはりそういう方が考えて作られるんです。洋服もそう、流れている音楽もそう、そして家に帰ってニュースを見られるんだったら、その前にだって音楽が流れるでしょう。好きな音楽、演歌でも何でもよかですよ。そういうものの中に、実は皆さん芸術・文化から縁遠い「俺は関係なか」と言われる方も、息の息を吸う、酸素を吸うように芸術・文化の中にいらっしゃって、その恩恵を受けているんです。逆にそれが

ない世界なんていうのはこの世に存在しない、人間社会じゃないんです。それを私は本当に強く感じるんですが、あまりにも当たり前であり過ぎて、自分がその恩恵を受けていることに気づきにくいがために重要視しないというような感覚が生じたりするのではないかなとも私は思うんですが、教育長、いかがお考えですか。

○教育長（上杉奈緒子君） 私も文化・芸術は日常的に当たり前になっているからこそ、失われて初めてその大切さに気がつくのではないかなと思っています。震災のときがそうでした。音楽によって勇気づけられたり、絵を描くことによって心が解放されたりといった場面を幾つも見てきました。芸術・文化は心を豊かにするために必要不可欠なものだと考えております。

御船町は音楽の町、恐竜の郷、5人の先哲などの先人たちが残した史跡等も多く残されている歴史の町でもあります。文化・史跡等も失われて初めてその価値に気が付くものです。だからこそ、日常的にその良さを発信していく必要性があると考えております。

現在、総合的な学習の時間に地域探検での史跡めぐりを取り入れるよう、学校に対して働きかけているところです。

また、社会科副読本の改訂をする時期になっており、御船の文化・芸術に触れる教材にしたいと考えております。御船高校の芸術コースには音楽、美術、書道が有名です。今後、幼・保・小・中・高・音大等との連携を図りながら、子どもたちから地域住民へと広がる取組みを進めていきたいと考えております。

○9番（福永 啓君） そして、これはもしかしたら最大の課題かもしれないんですが、芸術・文化振興における課題となると、やはり一番よく言われるのが、財政的面、お金の面じゃないかなと思います。芸術・文化はやはり費用対効果が見えにくい部分があると思います。ですので、財政支出が限られ、芸術・文化振興の障害となるという一面があると考えます。やはり一部の方からは、芸術や文化は金ばかり食うて何も返ってきませんと言う方もいらっしゃいますし、やはり支出の優先度は低いと感じられている方もいらっしゃいます。

また、これは趣味や好みの世界なんですよ。そういうところに何でお金を使うとですかと、そういう批判を受けることもあります。しかし、果たしてそれは実際はそうなんだろうということなんですね。これも前回質問したときにも引き合いに出した本なんです、これはアメリカの経済学者ボーモルとボウエンが1966年に発表した有名な本、『舞

台芸術 芸術と経済のジレンマ』というのがあります。これは経済学者がお金の面から考えて、芸術・文化というものがそれに見合うものなのかということをケーススタディを基に書いた本です。これは古典です。

その中で、やはり一般的に考えてもらえればわかると思うんですが、例えばオペラとかを題材にしてあるんですが、オペラではフルオーケストラです。そして、演者がいて、バックにあんな美術家がいて、本を書く人がいて、劇場があって、それでどれだけお金がかかりますか。劇場に入ってくる人だけではペイはできない。これは、そこでだけではペイはできませんというのが基本なんです。じゃそれが、なぜこの20世紀で、ヨーロッパとかは戦争ばかりしていましたよ。その間に、財政破綻を起こした国はいっぱいありましたよ。そこでなぜそれが生き残ってきて、今の現代社会にあるのか。それは人間が必要であることに加えて、プラスそれをするのが経済的だったからという面があるということなんです。

その経済性なんですが、外部経済性というものがあまして、国家にもたらす維新、これは地方自治体の場合は、町にもたらす維新と言い換えてもいいと思います。あとは、周辺のビジネスにもたらすメリット、経済波及効果です。将来の世代への利益、教育的貢献、これがちゃんとお金として返ってくるものなんです、というように結論づけてあります。この結論は少なくとも、先進国の中では教育行政にかかわる方は、これをもとにした論文とか、これをもとにして予算付けとかをされている部分があります。

芸術・文化、経済への波及効果、将来世代への利益等についてですが、これを教育長はどのように認識され、今後、施策にどのように反映されていかれますでしょうか。

○教育長（上杉奈緒子君） 確かに、財政的な充実というのは大きな課題だろうと考えております。特に教育委員会で所管している御船町カルチャーセンターの使命は、誰もが本物の芸術・文化に触れることができるように保障することです。オーケストラや劇団、絵画など、本物に出会う機会を充実させることが必要だと考えています。

また、地域住民に見える形にする。より多くの地域住民が関わられるようにすることも必要です。日頃芸術や文化に触れる機会の少ない住民や地域に対して、そのきっかけを与え、働きかける使命があると考えております。自主文化事業として幼・保・小・中学校、御船高校、平成音楽大学校等とも連携しながら、何ができるかを模索していきたいと考えております。

また、カルチャーセンターの講座として郷土の歴史・文化を学ぶ場を提供していく必要もあるのではないかと考えています。今後、芸術・文化のまちづくりとしての取組みを工夫してまいります。

○9番（福永 啓君） 芸術・文化、これは教育も同じだと思うんです。人に対する投資なんです。これは道路とかと全く同じです。基礎インフラです。人間社会としての基礎インフラに対する投資なので、これを進めることが、ひいては芸術・文化の振興において、これを進めることが、これはひいては上質なまちづくり、活性化の一番のポイントであるのではないかなと私は考えるのです。住みたい町とか住んでみたい町、わくわくする町、これを作り上げるためにも、この心です、住民の心のインフラにある芸術・文化、これに対する振興、これは本当に進める、これはお金がかかることではなくて、お金を生む事業だと思って進めるべきであると思いますが、町長、いかがですか。

○町長（藤木正幸君） 文化・芸術は私たちに喜びや感動、心の安らぎなどを求めるのに利用されております。人生に潤いを与えてくれるものであると同時に、豊かな感性や創造性を育み人間形成にも大きく影響を及ぼすものであると認識しております。

本町は、古来からやはり芸術・文化には長けた町だと思うし、先人たちが築き上げたものも多くあります。やはり伝統文化を守っていく私たちの使命があると感じております。

今後とも、豊かな心、町民生活が実現するとともに、活力や魅力を高め、文化力の高い町を築いていきたいと考えております。

○9番（福永 啓君） 本当にこれ、素敵な町、やはりこういうところに人は住みたいんです。ちょっとやはり上質な町、すごい便利な町もそうかもしれませんが、便利な町プラス上質な町、素敵な町、特別感がある町、これには芸術・文化というのは非常に貢献しますし、大変重要なポイントです。お金も生みます。ぜひこのあたりに今後投資、中期的に投資をしていただければなという話で、ここの芸術・文化に関する質問は終わります。

次のところ、次の場面についての答弁を願います。実はちょっとつながる部分もあるんですが、中長期財政見通しと現状の財政状況について、答弁を願います。

○町長（藤木正幸君） 2、中長期の財政見通しと現状の財政状況について、お答えをいたします。

中長期財政見通しは、国の地方財政計画や人口動態の変化などを自然的、社会的情勢を踏まえ、町税や地方交付税などをはじめとする歳入予算と、町民ニーズや総合計画に基

づき今後展開される施策等を盛り込んだ歳出予算で試算するものであります。

平成30年度に策定した中長期財政見通しにおける令和2年度の歳出見込額は、熊本地震の復旧が完了するものと想定し、総額約77億円と、熊本地震前の予算と同程度見込んでいました。一方、令和2年度の決算を見てみますと、150億円を超える決算となっています。見込額と差が生じている主な要因は、熊本地震からの復旧事業の継続や新型コロナウイルス対応、インター周辺の開発等の特殊事情によるところが大きいものであり、遠からず落ち着いていくと思われます。

また、中期的にはふるさと納税寄附金という財政的プラス要素を維持していくことで、将来の御船町の発展に寄与する事業にもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

今後は、社会保障費の増加や災害関連の公債費の増大等といった足元の状況を常に把握し、中長期の支出見通しを踏まえながら財政バランスを維持していきたいと考えておりますので、引き続き御協力のほうをお願いいたします。

その他、個別質問に対しては、担当課長より答弁させます。

○9番（福永 啓君） 平成30年に全員協議会において、当時の中期財政見通しというものを、皆さんお受け取りになられたかなと思います。その内容は大変厳しいものでした。毎年収支不足が発生し、令和10年にはもう財政調整基金は約3億円、これでは何か起こったときに絶対足りませんよね。そのようになってしまう。というように見積もられる財政中期見通しだったのです。

財政中期見通しは、毎年その都度更新されていると思いますが、現在、まず財政調整基金、この金額は震災前に比べてどうなっていますか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

財政調整基金の残高についてお答えしたいと思います。まず震災前の平成27年度末の残高は、約12億6,600万円でした。今回の9月議会の補正後で、ほぼ同額の12億3,500万円まで戻しております。また、基金の総額で言えば、震災前の平成27年度末は15億3,200万円でしたが、現在はふるさと応援基金が増加しまして、令和2年度末で29億8,759万円となっております。

○9番（福永 啓君） 平成30年度に、私どもが得た資料では右肩下がりであったものが、逆に今積み上げることができて、右肩上がりの状況になってきているという答弁でした。

ここで副町長、ぜひ副町長にお聞きしたいと思います。副町長も、先ほど教育長とお

話したときと同じく、なかなか町民の方々と直接お話をする機会もなく、どのようなお考えをお持ちなんだろうというお話を私もお伺いしております。副町長の場合、やはり県の職員だったということもあり、外部からこの御船町に入って、御船町の財政状況とかも御覧になってきたのかなと思います。

そういう、過去でやってきたことを加えて、一行政マンとしてでも、綺譚のない意見を、御船町に入ってきて、財政状況を見て、どのように感じたか。御自分の個人的な意見も併せて言われて構いませんので、ぜひ綺譚のない御意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○副町長（宮本 正君） 御船町の財政状況を見てどのように感じるかというお尋ねでございます。

財政状況を見るに当たりましては、把握する幾つかの数値がございます。まず、普通会計規模を見ますと、標準財政規模の今は3倍になっております。非常に大きくなっている状態です。それは、先ほど町長が答弁されましたが、諸要因で歳入歳出予算が膨らんでいる状況にあります。これは置いときまして、歳入歳出の収支である実質収支というものがございしますが、これは例年黒字が続いております。

次に、財政の余裕度を示すと言われます財政力指数、これは一般的に使われる数字ですが、令和元年度が0.37でございます。数年来安定しておりますけれども、概して高いとは言えません。ただ、県内市町村の数字とたまたまですけど一致をしております。県内の町村の平均を若干0.03ほど上回っている状態です。

もう1つ、財政の構造の弾力性を示す数値に、低いほうが弾力性に富むとされる経常収支比率というものがございます。令和2年度で93.0、これは令和元年度は94.7でしたから、ちょっと下がっていいほうに向っております。ただ、県内町村の平均は91.5ですので、ちょっと上回ってまして、もうちょっと落ち着いた数字になってほしいなと思います。

それから、先ほど来ありますけど、起債による借金返済の費用が通常収入です、これに占める割合として、公債比率、実質公債比率というものがございしますが、令和元年度が8.2でした。2年度に10.1、少し上昇しております。これは、町長の答弁でありましたけれども、地震の復旧事業に起債をしておりますので、中期財政見通しの中で参入済みです。引き続き財政運営をする中ではどうしても注目していく数値ではありますので、しっ

かり見ていきたいと思います。

次に、将来の財政負担の度合いを示します将来負担比率というものがございしますが、上昇が見込まれておりましたけれども、令和元年度の98.6から令和2年度の77.8とかなり減っております。主にふるさと納税が好調だったというところからでございますので、一喜一憂することなく、これはしっかりと見通しをつけていく必要があるかなと思います。

今、縷々述べましたけれども、財政状況を見る主な数値、ほかにも数値はたくさんありますけど、主なものを見たときに、未曾有の災害であった熊本地震からの復旧に多くの予算を投資したところから、そういうところを踏まえると、財政面はどうしても慎重にならざるを得ないとは思いますが。けれども、御船町の財政、これは最後に御意見ということでしたので、私のはっきりした認識で言いますと、現時点で財政状況は憂えるところはないと思います。

○9番（福永 啓君） 財政状況ですけど、私も自治体の比較とかやはり見ているんですよ。必ず出ますからですね。決して、私は御船町の財政状況というのは数字上いいものではない。潤沢ではないとは思いますが、しかし、やはり副町長の認識と同じように、特別憂えるところのあるような状況では決してない。いや、今は逆に、この震災を経て、しかも、このコロナ禍の中で好転すらしつつあると。これは間違いなく好転しつつあるのではないかという状況であると感じます。

なぜそのように感じるかという理由は幾つかあります。その大きな理由はまず町税です。ふるさと納税の増といった自主財源の増加だと感じますけど。それに加えて、私はこれが非常に重要なところだと実は思っているんですが、町の原動力です。町は町民がいて町なんです。町民こそが町の原動力だと思うんですが。その町民の人口の変化、これに注目したいと思っています。

前回の議会の行政報告で国勢調査の結果が報告されました。御船町の人口は、前回の国勢調査に比べて減っていますという報告がなされました。現状、御船町の人口は、国勢調査は4年に1回ですから、推計人口がどのように、御船町は一応将来的にどのように人口が減っていくでしょうか、推移していくでしょうかという推計を、まち・ひと・しごと総合戦略の会議の中で出しています。その推計に比べ、御船町、今現在の御船町の実際の人口の推移はどうだったのか。それをどのように推移してきたのか。それをお示しいただけますか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

町の人口の推移についてお答えします。まず、国立社会保障・人口問題研究所が5年ごとに推計人口を公表しております。平成25年に公表されました御船町の令和2年度における推計人口は1万6,816人です。震災後の平成30年に公表された御船町の令和2年度における推計人口は1万6,511人と推計されております。

町の住民基本台帳に基づく令和2年12月末時点の本町の人口は、1万6,972人で、どちらも社人研が出しております推計人口より実際の人口が多くなっております。また、推計では、町の人口は今後も右肩下がりとなっておりますが、本年8月末時点の本町の人口は今現在1万7,031人となっており、推計とは逆に人口増に転じているところであります。

○9番（福永 啓君） よくテレビとかで出ますよね、田舎の町の人口はこう減っていったって、何年後には半分になってきますよ、消滅しちゃいますよみたいなのが出ます。そういうのは、各市町村に対して出されているんです。御船町に対しても出されています。そうやって、国の機関が推計した人口よりも実は今御船町は上回ってきているんです。

それどころではなくて、この表を皆さんにお配りしたんですが、この表を御覧ください。まず、これが御船町です。御船町はこうやって減ってきました。そして、地震でゴンと減りました。ゴンと減って、後に実はちょっと逆に今反転してきています。確実に反転起点が見えてきています。ほかの市町村はどうでしょうか。甲佐町を見てみましょう。甲佐町があまり人口は変わらなかったんですが、このあたりから緩やかにずっと右肩下がりを続けていた。震災のときも、そんなに震災に対して特別下がったわけではないんですが、右肩下がりをずっと続けてきました。

それでは、山都町です、実はこれからこれまでが2,000で出してみたんですが、わかりやすいように。その2,000の枠内に収まりません。これを、じゃあどうすればいいかというと、倍にする。4,000にしてやっと収まりました。ここも10年間の期間の間に4,000人も人口が減っているんです。

では、震災がすごいひどかった益城町はどうなのか。これが益城町の図です。益城町は震災以前は人口が右肩上がりに上がっていたんです。それがドンと落ちました。落ちましたが、低迷期を経て、今少し人口が戻りつつあります。しかし、震災前までには戻っていません。

では、嘉島町は、これはずっと右肩上がりなんです。御船町の逆みたいな形で右肩上

がりだったんですが、地震でちょっと低迷しました。しかしまた右肩上がりになってきています。

ここで、おわかりになった方もいらっしゃるかなと思うんですが、御船町なんですが、上益城郡内で御船町だけなんです。何が御船町だけかという、震災以前は確実に右肩下がりです。そしてほかのところも、益城町、これも右肩上がりで下がった後、この右肩上がりになってきた。震災以前の姿を取り戻したというのが嘉島町なんです。ほかのところはずっとその傾向を、だから傾向的には同じなんです。上昇の傾向の町であったところは、震災後1回落ち込んだけれども、また上昇してますというところなんです。ほかのところは震災前にずっと落ち込んでいて、また震災後も同じような道をたどっています。

御船町は、これが震災以前、これが震災以後です。確かに落ち込みましたけど、違う種類のカーブをたどってきているんじゃないかなと思っています。これは上益城で1つだけしかないんです。このように、これを確かなものにしてしまえば、本当に御船町はこれから人口が元に戻る。いや増える可能性すらあるんじゃないかなと思うんです。

これを今お見せした理由、これはなぜこのようになっているか、それについて、課長はどのように分析されますか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

御船町では、令和元年度より転入者が転出者を上回ってきております。これは、移住者から見ると、御船町は住みやすい町と見られていることだと思います。町中心部に医療機関、スーパーマーケットまた警察署、消防署、役場、上益城振興局などコンパクトにまとまり、国道445号・443号並びに3つのインターがあり、どこに行くにも道路アクセスがよく、利便性に優れているからだと思われます。

また、御船町が熊本地震からの創造的復興を達成するための復興のシンボルと位置づけましたコストコ誘致、これに成功したことが大きな要因となっており、移住者より御船町はわくわくする御船町として評価されたものと考えております。

○9番（福永 啓君） コストコ、これは大変大きかったと思います。しかしコストコ効果だけではない。やはり、そもそもこの御船町が持っている町としてのポテンシャル、これが大変大きな伸び代があったということだと私は思っています。

熊本県内、先ほどの推定人口なんですが、熊本県内において、2040においても人口増が推定される町、市町村、これは3つあるんです。菊陽町、合志市、大津町、この3つだ

けなんです。県内で2040年も人口が増になるでしょうと、国の機関が推定している町はですね。この地理的要因を考えてみてください。菊陽町役場から熊本市役所まで、わかる方もいらっしゃる、わからない方もいらっしゃると思うんですが、御船町とほぼ同じ距離なんです。合志市と大津町、これは逆に役場と市庁舎間だったら、御船町よりも遠くなってしまう。時間もそうですよね。車で行く時間は、菊陽町から熊本市役所までがまあどっこいどっこいかな。そして合志市、大津町だった逆に遠いんです、鶴屋までは。しかも、御船町にはその3町にはない中山間部がある。これは決してデメリットではなくて、大きなメリットだと考えます。日本の原風景が広がって、そこに高速道路のインターまでであると。交通の便にも優れている。近年は本当に若い移住者の方々も多いんです。このような町としてのポテンシャルが発揮できていること、これがひいては町財政の健全化につながるのではないかと考えているのですが。町の中期財政見通し、このようなものの中に、このような町のポテンシャルですとか距離性ですとか、人口の増え方とか、そのようなものは見込まれて財政中期見通しを今は立てられているのでしょうか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

確かに議員がおっしゃるとおり、今の御船町、これには大きな可能性が秘められていると私も感じております。しかし、この中長期財政見通しにおきましては、国の地方財政計画とか、町民のニーズ、総合計画に沿って厳しく見積もっております。また、町発展の可能性まで十分に際しているものではございません。

○9番（福永 啓君） 今立てられている財政中期見通し、これに関して、そのような何か町のポテンシャルですとか、もしくは人口増ですとか、そういうことを盛り込むのは数字的に難しいと思います。ただ、結果としては、必ず今好転してきているような気がするんです。

町の財政状況なんですが、町の貯金である財政調整基金、先ほど答弁にもありましてとおり、震災前とほとんど同じになってきてます。これって、いっぱいあれば助かるかもしれないけど、あの熊本地震を乗り越えた財政調整基金までは戻ったんです。もうちょっとやそっとの災害で枯渇することはないはず。そして、財政の大きな柱である町税の推移を見ていただきたいと思います。これもお手元にお配りしていると思うんですが、これが歳入、町税の総合の歳入の推移です。震災で大きく落ち込んだ後は右肩上がりになっていますよね。これがV字回復を果たし、これはコロナ禍にあったにもかかわらず、何

とかこの最後の年度はこのように回復を果たしています。

それとあと1点、ふるさと納税ですが、このグラフはすごいですよね。これはゼロからの伸びです。以前は、ほとんどなかったんですね。藤木町政以前はほとんどなかったんです。こうこうこうやって、これからこの勢いでグッと伸びてきて、今これです。これをじゃあ、今の、こういうグラフを作っちゃいました。2つ合わせちゃいました、ゼロからです。合わせちゃったらここの変化は見えにくいんですけど。今現在は、このふるさと納税が町税の総額を抜いちゃっていますね。このような波が私は来ていると思っております。

最近、マスコミでもたびたびニュース等で御船町の取組みが紹介されています。これはコロナ禍にありながら、今現在、私は確実によい波が御船町に来ているように感じます。

町長は、外でいろいろお話を、外部の市長とか首長とかとお話しされることもありますから、そういうような感覚はいかがでしょうか。

○町長（藤木正幸君） 今、御船町には確実によい波が来ていると私も受け止めております。

事実、ほかの自治体の首長からもそのように評価を受けることがあるし、うらやましがられているのも確かであります。しかし、それは町民の皆さんの思いや行動、議員の皆様、町職員の思いや行動の結果であり、私がどうこうした結果ではないと思っております。

また、コロナ禍で厳しい生活を強いられている町民の方々や事業所の方も多く、まだまだ町民の方々に御迷惑をかけているところも多分にあると思っております。確かに町財政を含め、好転している部分もありますが、決してそれに慢心することなく、また好転しているよい波をしっかりと捉えながら、着実に町全体の福祉向上のために努力をしてみたいと思います。

○9番（福永 啓君） 町長は、藤木町長の町政が誕生して、さあ今からと、翌年が熊本地震ですよね。熊本地震が過ぎて、大変な時期が過ぎて復旧・復興、そして、去年一昨年かなにか、まあ、これからじゃあ復旧から復興への始まりの年度だという話をしたことがあると思います。そしたら今度は、コロナのパンデミックです。もう図らずもこんな時期に、ようもう本当町長になって、それは大変だったなと思いますよ。大変な苦勞だったことは十分に理解しています。それまでに行政経験があったわけではなくて、そしてこの時期になって、この一定の成果を出していらっしゃることは、大変高く評価する一方で、これはやはり町民の方々も同じように大変だったということなんです。熊本地震やコロナ禍の中で、町の財政は厳しかと、だけんあれを我慢して、これを我慢して、あれば我慢せいと

言われてきたっですたい、町民の方々も。そして、我慢強く頑張っていた。それが今このように、さっき町長も言われましたけれども、よい波が来ている。成果として現れているんじゃないかと私は思っているんです。

コロナ禍で、コロナ禍がまん延して、一方でコロナ禍ですら財政状況は好転している。企業誘致が進んでいる。人口も好転してきている。これって雰囲気としてよくなったんだなというのではなく、きちんとした、若干の策等はあると思うんですね。コロナ禍で好転してきている町、これは、私は本当にいい波が来ているのだと思います、今。だからこそ、この波をしっかりと捉えなければならないと。

これは芸術・文化にも続くんですけど、前回質問したことにも続くんですけど、治水対策です。これも経済効果は高い、見えにくい、さっき言った文化・芸術です。陳情にも上がっていた子育て支援、今日は朝午前中に3つありました子育て支援、そういう、これらの事業についてもいい波が来ている今こそ、私はきちっと推し進めるべきだと強く感じています。

それは、コロナ禍でできない部分も多々あるでしょう。しかし、そういうものに関してもできないから、じゃあコロナが終わってからじゃ駄目なんです。きちっと今から具体的計画を始めて、コロナ禍から一定の出口が見え始めた時期に、一気に推し進めなければならないと感じています。

このいい波を捉えるために、企画財政課長、どのように考えていらっしゃるか、お考えを聞かせてください。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

ここ数年の町の予算執行におきましては、まず平成28年の熊本地震からの復興・復旧を優先しておりました。また令和2年度からは、コロナ対策事業を最優先としてきたこともありまして、町民の皆様に我慢を強いた部分があったことは十分これは認識しております。

先ほど議員が述べられました様々な事業の実現に向けましては、コロナ禍の収束時にいち早く実施できるよう、今から計画を検討し、事業推進に向け、関係各課と協議を重ねていきたいと考えています。今現在、このいい波に乗っていきたいと考えております。

○9番（福永 啓君） ぜひいい波に乗っていただきたい。確かに財政が好転したとかいっても、何かすごい潤沢になったとかいうわけでもないんです。しかし、財政の健全化という

のは健全化することが目的ではないんですからね。町民の、あくまでもこれは健全化は住民自治、団体自治といった地方自治の本旨に従った町民全体の福祉、町内の活性化が目的です。そのために財政の健全化を行うわけです。町民の思いにかなう政策を推し進めるために、今からいろいろな計画を進めていかなければならないと思います。その際に、やはり私はいつも心にとめていることがあるんです、議員になる前からです。前は、どうしても町が計画を立てて、その後に町民に理解を求めると、周知を求めると。周知し、町民の理解を求めるという方向性だったんです。これから完全に脱却していただきたい。やはり町は町民の思いをよりよい方向で実現するための事務局という方向性に、施策立案の際にも、そういう方向性に切り替えていただきたいと思っていますが、いかがでしょうか、町長。

○町長（藤木正幸君） それは、町長は町民の思いをかなえるコーディネーターだと、選挙戦から私は唱えてきたところであります。震災やコロナで十分に果たしているとは感じていない部分もあると思いますが、今もその気持ちは変わっておりません。今後も町職員一丸となり、町民の思いをよい形でかなえられるコーディネーターとしての役割を全うしていきたいと思っています。

今、町職員に一番思いを伝えなければいけないのが、このコーディネーターのあり方だと思います。人と人をつなぐコーディネーター、地域と地域をつなぐコーディネーター、それを形にできるのも私たち職員であるし、よりよい町政を作るために、コーディネーターとしての役割を町職員一丸となって頑張ってもらいたいと思います。

○9番（福永 啓君） 町民の方々はいろんなことを言いなはるすよね。「あがんせにやいかん、こぎゃんせにやいかん」てですね。「ああ、そぎゃんですか」って、「それなら、こぎゃんしなはつとよかつじゃなかですか」「こういう方法がありますよ。そっちがもっとよりよくなりませんか」という町民の方の思い。皆さん、悪意から言っていらっしゃる方は1人もいらないんです。やはり町をよくするためには「こるばせにやいかん、あるばせにやいかん。それは議員も一緒ですよ」と言いなはるわけです。「ああ、そうですか。それだったらこのような形にしていけば、もっとよくなりませんか。じゃあ、これがいいんじゃないですか」というような、よりよい形で施策として実現していただけるような執行部、町長のあり方であってほしいと。当初そのようにおっしゃっていたので、いつまでもそのような形であってほしいと思います。

これもちまして、一般質問を終わります。

○議長（池田浩二君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これで散会します。

~~~~~ ○ ~~~~~

午後4時00分 散 会